

今週のみことば

「人間の墮落と神の救い」

(創世記 3 章1～15節)

「そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。」(3:6)

(ヨハネの福音書 3 章 13 節～21 節)

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(3:16)

今日のメッセージ要旨

◎人は「はなはだ良い世界」に生かされていながら何故墮落したのか？ 墮落した人を救い出すために神さまがなされた御業とは？ み言葉に聞きましょう。

◎創世記 3 章の主題は「蛇の誘惑」です。創造者であられる神様は、天地万物を創造された後に「人」を「ご自分のかたち」として「男と女」とに創造され、「エデンの園に置き、そこを耕させ、守らせ」、「種を持つ草と、種を持つ木の実」を食物として与え、「園のどの木からでも思いのままに食べてもよい」生活を許されたのです。所が蛇(サタン) がエバに近づき誘惑したのです。エバは神の言葉を拡大解釈し、自分の言葉を付け加え「律法主義」に陥った隙を突き、蛇が「あなたがたは決して死にません」とつけ込まれ、女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫も食べたのです。これは「神への背反」であり「罪」なのです。その結果人間は、自分が「裸」なのに気づき、恥ずかしくなり、無花果の葉で腰を覆い、隠し合う関係、夫婦の間の亀裂が生じたばかりか、神様からも身を隠す関係になってしまったのです。神様は愛の故に「あなたは、どこにいるのか」「あなたは何かということをしたのか」と招かれた時、禁断の木の実を食べたことは認めたものの、それぞれが罪の責任を他人に転嫁したのです。その結果、神様は蛇を呪い、女性に産みの苦しみを、男性には労働の苦しみを増したのです。しかし、神様は彼らのために動物を殺して「皮衣」を用意し、「メシヤを贈る」約束をされ、イエス・キリスト様の贖いによって救いの御業を成就されたのです。

◎ヨハネの福音書3章を通して、イエス・キリスト様がこの世に来られ、十字架に架かって贖いの御業を完成されたのは、信じる者に「永遠のいのちを与えるため」です(16, 17:2)。イエス・キリスト様は「事実、わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです。わたしはその人たちをひとりひとり終わりの日によみがえらせます」と約束されたのです(同6:40)。

◎イスラエルの民がエジプトを出て荒野の旅をしている途中、民は我慢ができずモーセに逆らった時、主は民の中に燃える蛇を送られたので、蛇は民にかみつ、多くの人々が死んだのです。その時、モーセは民のために執り成し、その祈りに応え、主が「あなたは燃える蛇を作り、それを旗さおの上に付けよ。すべてかまれた者は、それを仰ぎ見れば、生きる」と仰せられ、もし蛇が人をかんでも、その者が青銅の蛇を仰ぎ見ると、生きたのです。それと同じように、神さまの許からこの地上に降りて下さったイエス・キリスト様がすべての人の罪の身代わりとして十字架にかかり、神さまから徹底的に呪われ、裁かれ、十字架の御苦しみをお受けになられたのです。イエス様は十字架上で「わが神、わが神どうしてお見捨てになったのですか」と叫ぶほどに神さまから徹底的に見捨てられたのです。

ですからイエス様は「わたしは決してあなたを離れず、棄てない」(ヘブル13; 5)と約束されたのです。そのイエス・キリスト様を神さまは死人の中からよみがえらせてくださり、救い主としてお立て下さったのです。

「父よ、彼らをお許してください」とお祈り下さった主イエス・キリスト様の功により、わたしたちは罪赦され、神さまの子として受け入れられ、生かされているのです。今日記念しているお一人おひとりもこの恵みに与っておられるのです。